

# 令和5年度第1回 浜松市障がい者自立支援協議会企画会議会議録

1 開催日時 令和5年5月25日(木) 午前10時00分～11時30分

2 開催場所 浜松市役所 32会議室

### 3 出席状況

エリア連絡会名	所属	出席者氏名	
中エリア連絡会	中障がい者相談支援センター	藤川 晴海	
	中区社会福祉課	飯塚 康敬	
東エリア連絡会	東障がい者相談支援センター	野口 高臣	
	東区社会福祉課	中谷 知由	
西・南エリア連絡会	西・南障がい者相談支援センター	後藤 翔一朗	
	西区社会福祉課	杉森 泉	
	南区社会福祉課	内藤 淳	
北エリア連絡会	北障がい者相談支援センター	本宮 早奈映	
	北区社会福祉課	梶田 和彦	
浜北・天竜エリア連絡会	浜北・天竜障がい者相談支援センター	大柳豆 勇太	
	浜北区社会福祉課	島田 佐栄実	
	天竜区社会福祉課	杉本 太司	
全市	相談支援事業所シグナル	尾関 ゆかり	
事務局	障がい者基幹相談支援センター		雨宮 寛
			山下 由佳
			玉澤 卓也
			大軒 優一
	障害保健福祉課 生活・就労支援グループ		玉木 祐次郎
			柴田 多美子
			中谷 麻由実
			青柳 聖弥
		大平 真也	
医療的ケア児等支援コーディネーター		阿部 祥美	

#### 4 議事内容

- (1) 令和5年度協議会スケジュールについて
- (2) 専門部会およびワーキングについて

- ・こども部会
- ・生活部会
  - 強度行動障害支援ワーキング
  - 防災ワーキンググループ
  - サポートプラン検証
  - 虐待対応研修
- ・就労部会

(3) エリア連絡会と日中サービス支援型共同生活援助事業所との意見交換について  
(令和4年度報告)

- (4) 地域生活支援拠点 エリア単位に必要な機能の検証について
- (5) その他

5 会議録作成者 障害保健福祉課生活・就労支援グループ 大平

6 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 無

#### 7 会議記録

(1) 令和5年度協議会スケジュールについて  
〈市全体会〉  
障がい者計画の関係で10月に1回目、3月に2回目を実施する。  
〈企画会議〉  
基本的には奇数月の第4木曜日に開催  
昨年の企画会議で諮っていた日中サービス支援型 GH の事業者との意見交換を企画会議の場で持ちたいため、12月15日(水)にも開催する。101.102 会議室での開催を考えている。  
〈構成員全体研修会〉  
11月に開催予定。  
日中サービス支援型 GH の評価について事業所からの提出をいただいているところ。  
今月末までには各G長に届く予定。  
その後、エリアでの意見交換を依頼。  
(2) 専門部会およびワーキングについて

<こども部会>

アセスメントツールについて

アップデートが必要なため、そのことについてすり合わせる。

サポートかけはしシートについて

今年度できたものについては、今年度末に引き継いでいく。

取り組み始めてから時間が経っているが、あまり深い検証を行っていないため教育委員会の南瀬先生に入ってもらい行っていく。

18歳を迎える子どもの支援に関する移行

昨年度の移行ワーキングにて子育て支援課と調整したものを1年間取り組んだうえで、取り組み状況を確認していく。

[質疑応答]

アセスメントツールについて（雨宮さんより）

8月にアセスメントツールを用いた研修を行う。研修後、その検証を行うため、その後出てきたものでまたアップデートができると思う。

<生活部会>

昨年度の企画会議において、部会で取り扱うものについて各エリア連絡会の意見を事務局で話し合い、内容を決定した。（\*の内容）

\*強度行動障害支援ワーキンググループ

目的：

浜松市における強度行動障害を有する人への支援状況等に関する実態を把握し、支援者間のネットワークを構築して、強度行動障害を有する人への支援が充実するような仕組みづくりを全市的に行うこと。

内容：

- ・浜松市における強度行動障害を有する人の実態把握調査
- ・浜松市における強度行動障害を有する人への支援の現状を把握し、より身近な地域での強度行動障害支援者間のネットワーク構築の必要性や、支援者をバックアップする体制等についての検討

[質疑応答]

・基幹相談支援センターとして、助成や地域の体制づくりなどにもつなげてくような意味合いでネットワークづくりについて考えている。

もともと北区では研修を行っていて、今後は研修などのバックアップを市で行いながら、市全体に広げていけたらと考えている。

- ・強行のワーキングメンバーは相談支援センターからも出すのか？

未定ではあるが、事務局で打ち合わせをしたところ、施設連絡協議会、放課後デイサービス連絡会から今後推薦をいただきたいと考えている。実際に支援に当たられている現場の方3名ほどにご参加いただくことを考えている。（研修の講師をやられている方な

ど)

相談支援センターからのワーキングメンバーの選出は考えていないが、場面毎で参加をお願いする可能性はある。

\*防災ワーキンググループ

西・南エリアのセンター長より提案があったもの。障害保健福祉課のみでは対処できない案件であり、現在他Gと調整して進めている段階。

\*サポートプラン検証

サポートプランについては今年度試行的に始めているところ。マニュアルを見ていただき、基幹相談支援センターからエリア連絡会事務局にて改めて説明を聞いていただくよう考えている。ケースについて迷うことがあれば基幹相談支援センターと障害保健福祉課で考えるため相談していただきたい。

\*虐待対応研修

総務調整Gと進めている。

11月までには開催する。(決定から3か月は準備期間が必要。逆算して実施日を示す必要がある)

メンバー、日にちについて未定。

<就労部会>

浜北・天竜エリアから特別支援学校からのつながり先についての課題はいただいている。新しい就労選択支援というものができようという動きがある。

どのように就労選択支援に繋げていくか、今ある就労アセスメントのあり方はどうなのかという意見。

⇒基幹+支援事業所+特別支援学校で情報共有・・・自立相談支援協議会で取り組むべき問題については、企画会議に持ち出し、相談していきたい。

就労企画会議：「福祉施設から一般就労への移行」をテーマに今年度協議を行う予定。

課題が出来たら企画会議にて相談する。

今年度「一般就労」が大きなテーマになっているため、産業部門にも入ってもらいながら調整して進めていきたい。

障がい福祉実施計画での一般就労への移行目標「219人」⇒課題や解決について就労企画会議でやっていきたい。

(3)エリア連絡会と日中サービス支援型共同生活援助事業所との意見交換について(令和4年度報告)

《中エリア》

・事業所からの意見

複数の事業所でフィードバックを行うのはいいことであった。他の事業所がどのようなことを行っているか知りたいとの声。

(他事業所のことについても知っているのと客観視しやすくなるため)

⇒(この意見を受けて)ネットワークづくりのような感じでやっていきたい。

- ・次年度の意見交換に向けて

GH 間のネットワークづくりについて、連絡会を作るなど、を考えていきたい。(中エリアではかなり GH が増えているため。)

GH が増えている、選択肢があることは当事者にとって悪いことではないはず

- ・中エリア連絡会における意見

支援者や事業所からの話は聞くが、実際生活している人からの話は聞いていない。

実際生活している方からの意見のくみ上げなどをどのように行っていくかについて考えていきたい。

《東エリア》

- ・浜松市障がい者自立支援協議会からの要望、助言を受けて

短期入所施設の数が少ないことより、浜松市障がい者緊急時対応事業の事業所登録も引き続き検討いただきたい。

⇒事業所単位での判断は難しく、事業所は本社と協議をする必要がある。今年度の意見交換会にて報告を受ける予定。

個別の支援目標は立てているものの、様々な経歴の職員がおり、統一した対応が難しい。

- ・次年度の意見交換に向けて

自社だけでの指導では、対応に苦慮+専門的な見解を得た上での支援が必要

⇒他機関の SV を交えながらの事例検討会の設定を提案

緊急時の受け入れについては、引き続き受け入れを事業所へ呼び掛けていく。

《西・南エリア》

- ・浜松市障がい者自立支援協議会からの要望、助言を受けて

管理者が交代直後で構成員からの質問に十分具体的に回答することができなかった。

- ・次年度の意見交換に向けて

管理者の方のみでなく、サービス管理者や事業者の方など、現場の生活の様子がより分かる形で意見交換を行うようにしたい。

《北エリア》

- ・浜松市障がい者自立支援協議会からの要望、助言を受けて

エリア連絡会が企画する研修会等に積極的に参加し、職員の専門性や支援の質の向上に努めていただきたいと事業所へ伝えたところ、「生活支援員中心に研修を受けていきたい。」「北エリア連絡会の研修会には今後とも積極的に参加する。」という回答があった。

- ・次年度の意見交換に向けて

「日中活動の充実」について重点的に協議していく。

行きたくても社会資源が限られており、また物理的問題、体の状態などによって皆が出掛けられるわけではないが、GH で止めているわけではないため、対応可能な利用者には

充実した支援をしていきたい。

《浜北・天竜エリア》

各エリアの意見を聞き、事前に見学をし、互いのGHを知りたいと思っている。

横のつながりで確認をしていく。

○各エリアの方からの質疑応答

・ 報告書について、「フィードバック後の事業所の対応等」の書き方について

実際取り組みを実行できていない場合でも「こういうことをやってみたい」を答えてもらえればよい

・ 各エリアの発言にあった「ネットワーク」とは日中支援でのみの話か？

特に日中支援のみでの意味合いではない。

日中支援型GHをテーマにしつつ今後全体的につながっていければと考えている。

・ 評価の仕方について

同じ法人で2か所の事業所がある場合、一緒に評価するかそれぞれやればよいか

同じエリアでも地域性や利用者の差異により、異なる事象が発生することが考えられるため別で行えばよいのではないか。

(4) 地域生活支援拠点 エリア単位に必要な機能の検証について

・ 自立支援協議会の体制図の変更について

枠の真ん中左にある「地域生活支援拠点等検証委員会」の中に「検討会議(仮)」を加えた。

⇒毎月、障害保健福祉課と基幹センターで行っている会議を検討会議(仮)という位置づけにしていきたい。

各エリアについて考えることが必要になる可能性があるため、エリア連絡会とつなぐ矢印を加えた。(地域生活支援拠点等検証委員会がエリアともつながっていくということを可視化した)

## 1. 背景と目的

R4の地域生活支援拠点等検証委員会において現在の全市的な地域生活支援拠点等の整備についてエリア単位でのニーズ調査や機能強化を図ってはどうかという意見が挙がった。これに基づき、各エリアにおける体制を検討するため、緊急時登録ケース等を通してエリア単位での拠点機能を検証する。

## 2. 方法

・ 対象となる個別ケースの選定については、基幹相談で登録しているケースに当てはめていくことを考えている。

ケースの登録が必要である場合、エリアの機能だけでは不十分となるものを自閉症や引きこもりなどといった選定基準により登録を行っていく。

・ 「住み慣れたところでさらに安心して住めるようにするにはどうしたらいいか」について引き続き考えていきたい。

○質疑応答

・計画相談が支援に入っておらず、登録がない方も共同支援会議においてケースの検討を行っていく。(登録者の中からの個別ケースの選定が基本ではあるが)

・行き詰った場合など、困難な事象については、基幹センターと一緒に考えていく。

・医ケアについて、医療機関も交えて共に考えて進めていかなければならない。

・登録者の現状について

①住んでいる地域で完結していない。

⇒遠方からの協力が必要

②短期入所に繋ぐことだけがメインになっている

⇒今あるもののみでなく他の方法はないのかなど、深めるところを協議していきたい。

(5) その他

・11月に開催予定の虐待研修について

官民共同で行う、委託の職員を対象にした研修

昨年同様、手引書をもとにした、進捗会議も行う。

11月開催予定なので3か月ほど前の8月頃から準備を行っていく。

・区再編時の自立支援協議会の体制や、エリアを軸にしたものの取扱いについて

⇒今後市も混ざって話し合いを行い調整していく。

・スマイルフェスタはままつについて

市野イオンでの開催を考えている。詳しいことは今後調整していく。

次回企画会議

日時：7月27日(木) 10時～

会場：61会議室